

緑の相談コーナーだより

NO. 309 2011. 3. 1 発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “ハンノキ” (榛)

～湿地帯のパイオニアといわれる樹～



Alnus japonica STEUD.
ハンノキ

田山花袋の「田舎教師」に「ひよろ長い^{はんのき} 榛」の片側並木が田圃の間にひとしきり長く続く」という一文があるように、北海道や東北地方の平坦な海岸の湿地などにもハンノキ林が広々と続いていることがあります。北海道、本州、四国、九州、朝鮮、中国東北部、シベリヤの温帯湿地に分布します。カバノキ科ハンノキ属の落葉高木ですが、ハンノキ属には約 35 種あり、北半球の温帯、インドからインドネシア、南アメリカのアンデスなどに分布しています。日本には、そのうちの十数種があり、高山性のミヤマハンノキ、葉の先がU形になるヤハズハンノキ、低地に生えるカワラハンノキ、葉の緑の浅いヤマ

ハンノキなどが知られています。ハンノキは林野の湿地を好み、自生しますが、植栽されることも多く、ワサビ田の遮光用や水田の畦に一行に植えて、稲掛けとして利用されたりしました。高さ 15 ～ 20 m で胸高直径が 1 m 位になる落葉高木で、早春、新葉が開く前に開花します。雌雄同株で、暗紫褐色の雄花は、長い尾状の花穂^{かすい}をつくって垂れ下がり、その基部に暗紅色の雌花をつけ、秋になると、長さ 2 cm 位の暗褐色の卵形の球果が実ります。

ハンノキの名前の由来は日本名ハリノキの転訛といわれますが、ハリノキの語源については不明です。日本では、古くからハンノキに榛の字を当てていますが、榛はハシバミの漢名ですので間違い易く、注意が必要です。

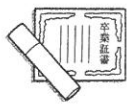
北海道には南方系のハンノキと北方系のエゾハンノキが混在するといわれますが、両者の識別点は、エゾハンノキは葉の先端が有尾鋭尖形なこと、葉の縁辺に顕著な鋭尖牙齒があることや大形の球果をもつことなどの特徴から、ハンノキと区別できます。

ハンノキは根粒菌をもつので肥料木としての効果が期待され、湿地帯や荒廃地の緑化には、ヤナギとともに有用な樹木として用いられてきました。この名残として、北海道の泥炭地改良の水田地帯には、エゾハンノキの防風林が残っているのです。

材質と用途ですが、辺材は淡黄褐色で心材は灰褐色から淡紅褐色の散孔材で、加工は容易なので寄せ木や器具材として用いられる外、古くから、樹皮の汁と果実は染料にしました。五日市産の黒八丈はハンノキの実の液で鉄媒染をつかい黒く染めたものです。

はんの木に^{からす}鴉 芽を嘯む頃なれや
雲山を出でて人畑をうつ

正岡子規



公園だより

バラ園



雪の多い岩見沢としても、滅多にない大雪となったこの冬ですが、市民の皆さん方には被害は無かったでしょうか？農業ハウスや家屋への被害などももたらした大雪ですが、庭木などの雪折れや枝抜けなど、雪害も起きているようです。バラ園のバラ達は厚い雪のフトンをかぶり、まだ休眠しています。でも、この後融雪が進むにつれて、雪の沈降圧により、折れたりしないかちょっぴり心配です。今月は、北国の大自然が少しずつ目を覚まし、木々の枝先が輝きを増し、南下していた渡り鳥も帰って来る季節です。バラ達が雪の下から顔をのぞかせるのももうすぐです。

♥今月のバラ園からの一口メモは、バラのスタンダード仕立てについてです。ノイバラや丈夫なツルバラなどの、真っ直ぐ伸びた茎を台木にして、地上1m前後の高さのところに、好みのバラの品種を芽つぎしてパラソル状に仕立て、これに花を咲かせて楽しむものです。平面的な株バラの中に植えて立体的なアクセントをつけたり、芝生の中に独立して植え込み、華麗なバラの美しさを演出するのに効果的です。作り方の手順さえ分かれば、技術的にそれほど難しいものではありませんので、一度ためしてみると面白いですよ。

室内公園色彩館では、ハナモモやサクラ、ライラックの花が終わり、かわってクスノキやマサキに淡い黄緑の地味な花が咲いております。あまり目立たないため、うっかり見逃してしまうかもしれませんが……。今月は、間もなくハナミズキが薄ピンクの可憐な花を咲かせることでしょう。外のバラたちはまだ雪の中ですが、色彩館ではバラの花も楽しんで頂けます。

南国温室では、三尺バナナの実が収穫の時期です。レモン、ブンタン、ミカンが色づきを増しています。カラー、アンスリウム、ストレリチア・レギナエ（極楽鳥花）、ランタナなどの花も咲き、ガジュマル、パピルスなどが繁ってここは別世界です。

相 談 日 記

問 庭木やコンテナ栽培の樹木の葉の脱落について伺います。水や肥料もきちんと与えていたのに、突然、葉が落ちてしまいました。落葉するような時期でもないのにどうしたのでしょうか？また、コンテナ栽培の樹木では冬の間にもよく葉の落ちることがあります。これは一体何が原因でしょうか？また、治療法や対策などがあれば知りたいのですが。

答 葉の落ちる原因は、季節によって違っていますが、まず考えられるのは日照不足です。植物の生育には、水や肥料のほかに太陽の光が必要です。日当たりの悪い場所で育てていると、突然葉が落ちることがあります。このほかに考えられるのは、水のやりすぎや多雨による根腐れです。長雨のあとに葉が全部落ちたときは、根腐れを起こしている可能性があります。逆に、土が乾燥しすぎても葉が落ちてしまいます。夏に葉の生気がなくなって落ちたときは、水不足が原因です。また、冬に葉が落ちた場合は、乾燥や寒さによる根の凍結が考えられます。とくに、寒さによる場合は、葉が緑色のままで落ちるので分かります。

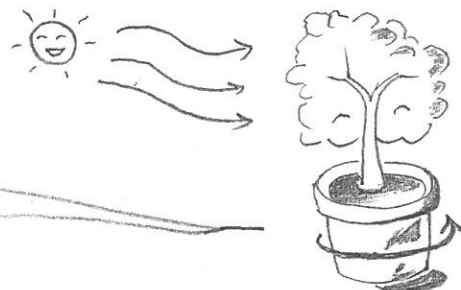
コンテナ栽培や鉢植の場合は、根づまりを起こしている可能性があります。特に3年以上も植え替えを行っていない場合は、株が大きくなり過ぎているかもしれません。

なお、春に葉が半分くらい落ちてしまった場合で、新しい枝が伸びはじめていれば、葉の新旧交代が行われているだけなので、あまり心配はいりません。このほか、樹木を植え替えた直後には、葉が落ちることがありますが、これは、根と葉のバランスを保つため、一部の葉を落として樹木全体の養分調節をしているものです。

治療と予防のポイント 日照不足が原因の場合は、日当たりのよい場所に、根ぐされの場合は傷んだ根を切り、水はけのよい場所に植え替えましょう。また、葉が落ちた後、乾燥に気を配って世話をすると、時期は遅れますが芽を出すことがありますので、良く症状を観察して下さい。予防法は、露地栽培では水のやりすぎに、コンテナ栽培では乾燥と凍害に注意しましょう。また、コンテナ栽培は1～2年ごとに植え替えを行ない、春屋外に出す時は曇天や雨天の日にし、急に直射日光を当てて葉焼けさせないように注意しましょう。

コンテナ栽培では、どの方向にも日が

当たるように時々向きを変えましょう



早春の日差しに輝く銀色の花穂～ネコヤナギ 花言葉 自由な心



ヤナギ科の落葉低木で、日本各地の川岸や田圃の畦際^{あぜぎわ}などの水辺に好んで自生します。庭木としても植えられ、高さは50 cm～2 mほどになります。早春の軟らかい日差しのもと、葉に先立って開花する、キラキラと輝くような銀毛に覆われた花穂は、北国の春の到来を告げるものでもあります。植物名の由来は、銀色の軟らかい毛に包まれた花穂が、ネコの尻尾に似ているところからつけられたものですが、別名のエノコロヤナギは犬の子のヤナギという意味で、これも花穂を犬の尾になぞらえたものです。また、カワヤナギとも呼ばれますが、これは水辺に生えることによるものと思われます。また、葉に斑のあるフイリネコヤナギ、雄花が黒色のクロヤナギ、切り花用に好まれるフリソデヤナギなどの種があります。購入するときは、花穂が伸びすぎていない、赤い皮が半分程度ついているものを選びましょう。手入れのポイントは、土の乾燥を嫌うので、特に鉢植えでは水切れに気をつけましょう。

3～4月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣家庭果樹の楽しい管理

日時 3月 6日(日) 13:00～15:00

講師 中央農業試験場 井上 哲也 さん 定員 40人 参加料 無料

♣室内公園のバラ、花木類の観賞

日時 3月 13日(日) 13:00～15:00

講師 緑化相談員(樹木医) 泉 征三郎 定員 40人 参加料 無料

♣ハンギング作りの基本

日時 4月 10日(日) 13:00～15:00

講師 月形コテージガーデン 梅木あゆみ さん 定員 40人 材料代 1500円

♣楽しい家庭菜園作り I

日時 4月 24日(日) 13:00～15:00

講師 園芸研究家 横山 弘 さん 定員 40人 参加料 無料



編集・発行 北海道グリーンランド(空知リゾートシティ株式会社)

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで